

年 月 日

アクアトップSEP<sub>ホワイト</sub>

—モルタル平滑面—

施工手順書

工事名称	
所在地	
設計・監理	
請負会社	
施工会社	

大同塗料株式会社

本社 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号  
TEL.06-6308-6288 FAX.06-6308-3618

## 施工手順書

### 1. 適用

1-1. 本施工手順書は\_\_\_\_\_工事への  
アクアトップ SEP ホワイトの施工手順書として適用する。

1-2. 本書の適用においてメーカーのカタログや技術資料を参照する。

### 2. 施工上の注意事項

#### 2-1. 材料の取り扱い

1) メーカーの指示に従い適正な取り扱いを行う。良く攪拌してから使用する。

#### 2-2. 気象条件

##### 1) 温度の影響

気温が 8℃以下の時は施工しないこと。また、日中に気温が上がっても夕暮れから急に気温が低下する場合や、夜間に冷え切った下地が日中になっても温まらない場合がある。性能不良等の原因となるので施工にあたっては十分注意する。

##### 2) 風の影響

風速 5m/秒以上の場合には施工を中止する。特にこれが低温の場合には注意が必要である。風のため気温より壁面温度が一層低くなる。風の影響をなくすためシートを掛けることを心がける。また高層の場合、地上よりまして風速が加わるので注意する。

##### 3) 雨の影響

塗布した塗材が未乾燥のうちに雨にあたると流出してしまう。施工時はもちろんのこと、施工終了後の気象状況にも配慮することが大切である。また施工前に降雨があった場合には、下地に水分が残り、高い含水率を示すことがある。下地が十分に乾燥したのを確認してから施工に入るようにする。

##### 4) 湿度の影響

湿度の高い(85%以上)日に塗装を行う場合は、乾燥が非常に遅く作業性が悪くなる。できるだけ通風を良くする。

#### 2-3. 施工条件の管理

1) 本施工に入る前に必ず試験塗装を行い、現場管理者の承認を得るようにする。下地の差などからくる提出見本との微妙な相違点は予め承認を得ておくことが大切である。

2) 各塗装工程の間隔はカタログ、標準塗装仕様書等の通りに行う。

3) 塗布量は希釈前の必要量なので、希釈した場合は希釈した分を考慮する。

4) 足場板の影の部分は、足場ムラが出やすいので細心の注意を払い、足場を外す前に必ず検査をして、ムラがある場合は補修をする。

5) 本製品は、多少の臭気と飛散があるので、施工にあたっては周辺環境にも留意する。特に近隣の居住者には事前の説明および了承を得るようにする。

#### 2-4. 養生

1) 養生は汚れ防止のため入念に行う。特に非塗布面に誤って付着した時は、迅速に拭き取る必要がある。何よりも施工時に十分に気をつけることが大切である。

- 2) 望ましくは、捨てテープ法を用いる。捨てテープは吹き付け後 1 時間以内にゆるやかに取り除く。
- 3) 養生材：ポリフィルム、クラフト紙、新聞紙などを粘着テープにて接着する。接着剤付きの養生材は粘着テープが不要である。
- 4) 注意点：施工面とテープとの境目が蛇行しないように行う。また、風等により簡単に剥がれないようにする。

#### 2-5. 塗装面の保護

- 1) 塗材が所定の性能に達するまでの期間は、物との接触、水または油等から保護するため適正な養生を施す。

### 3. 施工手順

#### [アクアトップ SEP ホワイト モルタル平滑面]

##### 3-1. 前処理

- 1) 塗布対象面は、汚れ、油分などを除去し、清浄かつ乾燥した状態にする(含水率目安：ケット水分計 6%以下)。
- 2) クラック、欠損等の劣化状況に応じ、下地補修を実施する。場合によりフィラー処理を行う。
- 3) 非塗布面に対しては必ず養生する。
- 4) 風向き、気温等の影響および塗装の方法により臭気が強く感じられることがあるので臭気対策のための養生を行う。

##### 3-2. 下塗り

- 1) アクアシール 50E は希釈せずそのまま使用する。
- 2) 塗布方法は、原則としてローラーで施工する(スプレーで塗装する場合は、霧散するので周辺の養生はより確実に行う)。
- 3) アクアシール 50E は乾燥すると塗布面と未塗布面との区別がつきにくくなる。塗りもれのないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布する。
- 4) アクアシール 50E を塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度目を厚塗りし、2 回程度に塗り重ね、所定の量を確実に塗布する(標準塗布量 0.18~0.22kg/m<sup>2</sup>、スプレーで塗装する場合は、霧散するので 2~4 割程度多めの量を塗布する)。アクアシール 50E は浸透型なので追っかけ塗りが可能である。
- 5) 塗装は間隔をおくとハジキが出るので連続して行う。
- 6) アクアシール 50E の塗布面は 23℃、12 時間以上乾燥養生する。
- 7) アクアシール 50E が塗布面以外に付着した場合、速やかにシンナー等で拭き取る(固着すると全く除去できなくなる場合があるので十分に注意する)。

### 3-3. 上塗り

- 1) アクアトップ SEP は水で希釈し、電動ミキサーで 2～3 分かけて十分に攪拌する。希釈率ははけ・ローラーの場合 10～20%、エアレススプレーの場合 5～15%、エアースプレーの場合 20～30%を目安とする。
- 2) 使用するガン、ホース、タンク等は使用前によく洗浄する。溶剤が残存していると、アクアトップ SEP が溶解し目詰まりの原因となるので、水に置換してから使用する。また、目詰まりを防止するために、フィルター等でアクアトップ SEP をろ過し、ブツなどを除去する。
- 3) アクアトップ SEP の標準塗布量は 2 回塗りで  $0.36\sim 0.44\text{kg/m}^2$  とし、一度に厚塗りせず、タレに注意して塗布する。1 回目塗布後 30 分以上(23℃の場合)おいてから、2 回目を塗布する。
- 4) 塗装終了後は 6 時間以上(23℃の場合)乾燥させる。

### 3-4. 検査

- 1) 完了した塗布面に対し、色ムラ、艶ムラ、はけ目、その他の欠陥の有無を調査し、必要に応じて手直しを行う。